

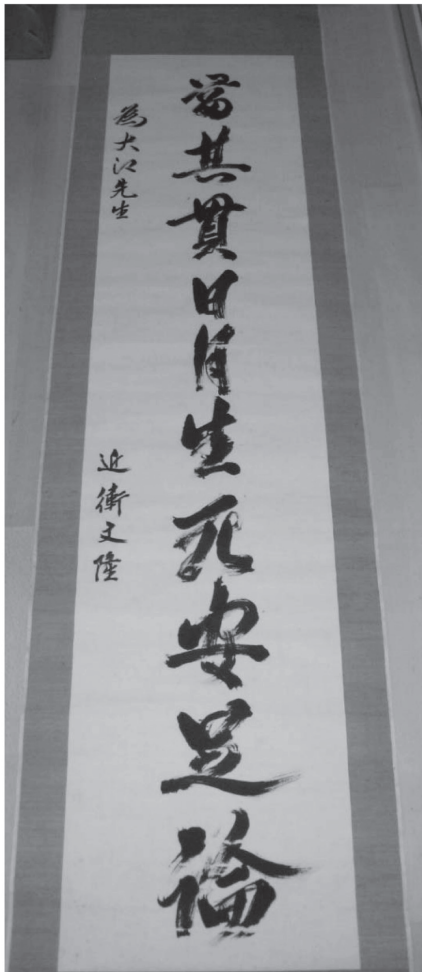
【資料紹介】

記念センター所蔵寄贈資料目録 ⑨

東亜同文書院大学記念センター研究員 武井 義和

今回は、2014 年度に東亜同文書院大学記念センター（以下、「記念センター」）に寄贈された資料のリストを掲載する。紙幅の関係上、リスト中の一部の資料のみの解説になることを予めお断りしておく。

有森茂生氏からは、今年度も多数の資料を寄贈頂いた。近衛文隆書（No. 36 - 77）



近衛文隆書（No. 36 - 77）

は木箱に軸装で収められているもので、「當其貫日月生死安足論」と揮毫されている。

また、木箱上蓋の表面には「近衛文隆公真蹟 并鄭孝胥遺墨」、上蓋の内側には文隆から書を入手した経緯について、「昭和十五年四月廿八日ハルビン郊外阿城営内ニ出征中ノ近衛文隆公ヲ慰問ス席上特ニ余ノ余ノ請ニ応シテ揮毫セラル、帰途鄭孝胥ノ墓ニ詣テ為紀念 大江喜市郎 佐伯蘇岳誌」とそれぞれ墨書きで記されている。ここから大江喜市郎と佐伯蘇岳という2人の日本人が、1940（昭和15）年4月28日に文隆を慰問し書を揮毫してもらったことが分かる。ただ、蓋の裏書には「余ノ請ニ応シテ揮毫セラル」とあり、「余」とは大江と佐伯のどちらを指すか分からないが、文隆の書には「為大江先生」とあることから、大江が文隆に揮毫を請うたものと考えられる。

なお、木箱の中は掛軸が2幅収められるようになっているため、もともとは文隆書とともに、鄭孝胥の墓を詣でた際に入手したと推察される遺墨もあったのであろうが、記念センターに寄贈された際には文隆書だけが収められている状態だった。

ここに出てくる佐伯蘇岳とは佐伯理一郎（1862～1953年）のことである。佐伯は現在の熊本県に誕生、明治前期から医師の道に進み、1891（明治24）年京都の同志社病院に勤めるかたわら、付設の京都看病婦学校で産科の講義を担当した。日清戦争に軍医として従軍した後、1897年には同志

社病院長と京都看病婦学校長を兼任し、同時に産婆養成を開始、1906年に同志社病院が閉鎖されるも産婆看護婦の養成を継続して行った。第二次大戦後の1951（昭和26）年には日本産婦人科学会名誉会員、日本医師学会名誉会員に推薦されている⁽¹⁾。

このように医師として活躍していた佐伯と文隆の接点について、1933年に出された佐伯理一郎述『体験 長寿養生法』には文隆の父文麿が佐伯に贈った書「南山祝寿長」が掲載されていることから、経緯は定かではないが佐伯と文隆、さらには近衛家との関わりが以前からあったことがうかがえる。一方、大江についての詳細は不明である。

また、文隆の祖父にあたる**近衛篤麿の写真（No. 36－93）**は、保存状態がよく、写真台紙には「近世名士写真頒布会」と黒字で、写真を覆う透明の包紙には「内務省認



近衛篤麿写真（No. 36－93）

可済 不許複製 近世名士写真頒布会」と赤字で記されている。近世名士写真頒布会は1935（昭和10）年に『近世名士写真』と題する2冊の写真帖を出しているが、発行所が大阪市となっており、中川忠三郎という人物の秘蔵写真であるとしている。『近世名士写真』には西郷隆盛、勝海舟、陸奥宗光など、幕末から昭和初期までの時期に活躍した名士たちの顔写真が収録されている。そのうち、『近世名士写真 其二』には近衛篤麿の顔写真が掲載されているが、寄贈された写真と同一である⁽²⁾。したがって、今回寄贈された写真は中川がもともと所蔵していたもので、近世名士写真頒布会が入手し『近世名士写真 其二』に収録され、また、その際に同会が内務省から認可を受けたのではないかと推察される。

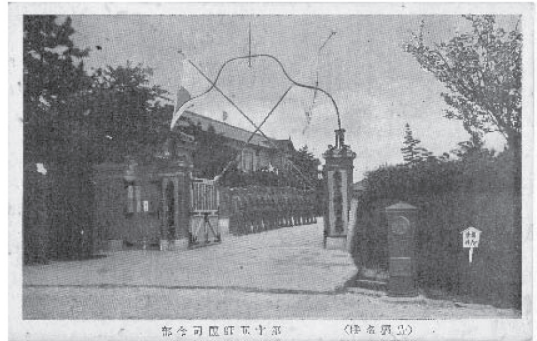
近衛篤麿は東亜同文会の初代会長であり、彼の日清関係に対する理念が両国友好の発展を目指す学校「東亜同文書院」として実現したことは『東亜同文書院大学史』などでも触れられているが、1901（明治34）年上海に開校後、1913（大正2）年の中国第二革命や日中戦争で校舎が焼かれ移転せざるを得なかった。1938（昭和13）年4月22日付けの写真特報大阪毎日（No. 36－85）は、1937（昭和12）年10月から翌年3月まで長崎市に仮校舎を設置し授業を行っていた東亜同文書院が、上海に復帰し交通大学の校舎を借用して再開したときの模様が写真で紹介されている。また、1938年1月と2月の写真特報大阪毎日（No. 36－95①、②）は、東亜同文書院上海復帰直前の上海の様子をうかがい知ることができる資料といえる。



写真特報大阪毎日 (No. 36 - 85)

東亜同文書院は1939年大学に昇格後、わずか6年で敗戦により閉校を余儀なくされたが、本間喜一東亜同文書院大学学長は1946年11月、愛知県豊橋市に愛知大学を創設した。愛知大学が置かれたその場所は、もともと明治時代末から第二次大戦終結時まで陸軍の施設であり、第十五師団(1908～25年)、陸軍教導学校(1927～40年)、陸軍予備士官学校(1940～45年)という

かたちで使用されていた。また、第十五師団は多くの部隊が現在の豊橋市の各所に駐留していたが、その様子を含む旧軍時代の写真はがき(No. 36 - 82、36 - 84、36 - 91)も寄贈頂いた。現在の愛知大学、さらには豊橋市が昔はどうであったのかを知ることができる資料である。



第十五師団、陸軍教導学校の写真はがきの一部 (No. 36 - 82)

上の絵葉書は第十五師団司令部正門、現在の愛知大学正門。

近衛文麿書「守樸」(No. 62 - 1)を学校法人国士舘から寄贈頂いた。この書はもと、岡上梁東亜同文書院副院長が副院長在任時に文麿から贈られ所蔵し、孫にあたる岡上直子氏(十文字学園女子大学教授)から学校法人国士舘に寄贈されたものである。2012(平成24)年10月に開催された全国大学史資料協議会2012年度総会・全



近衛文麿書「守樸」(No. 62 - 1)

国研究会に田辺勝巳豊橋研究支援課長が参加した際、国士館の熊本好宏氏と情報交換したのがご縁となり、「守樸」についての情報が田辺課長にもたらされた。その後、田辺課長が熊本氏と緊密に連絡を取り合い、国士館史資料室訪問などを行った結果、熊本氏より東亜同文書院大学を継承した愛知大学に移譲する考えなどが示された。それに関し、岡上直子氏のご意向を伺う必要もあったため、2013年12月25日に東京で東亜同文書院記念基金会理事会が開催された折、理事会に出席した馬場毅記念センター長（当時）、藤田佳久名誉教授、田辺課長の3名が岡上直子氏に面談したところ、同氏から「守樸」の愛知大学への譲渡について承諾を得たことも受けて、2014年に東亜同文書院大学記念センターへ寄贈されることとなり、同年5月30日に田辺課長が学校法人国士館にて受領したものである。

東亜同文書院大学記念センターはこれまで、近衛忠熙、篤麿、文麿、文隆の書も所蔵してきていることから、文麿さらには近衛家にまつわる貴重な資料がまた1つ加わったことになる。

松永俊一氏、大村英夫氏、木山員子氏からは東亜同文書院に関するアルバム類を寄贈頂いた。松永俊一氏から寄贈された『第5回卒業生記念写真帖』、『第6回卒業生記念写真帖』（No. 65 - 1、65 - 2）は、書院第4期生で卒業後母校の教員も務めたご尊父・松永千秋氏が所蔵しておられたものである。1994年に寄贈頂き、1998年5月に東亜同文書院大学記念センター展示室がオープンした時からガラスケースに入れて展示していたが、2014年にレプリカを作製したため追登録したものである

大村欣一東亜同文書院教授のご実家筋に

あたる大村英夫氏⁽³⁾から寄贈された3冊の『卒業記念写真帖』（No. 64 - 1 ~ 64 - 3）は、初代校舎である桂墅里校舎が辛亥革命後の第二革命で炎上したためハスケル路仮校舎が設置された時期にあたる。したがって、被弾し破壊された桂墅里校舎の生々しい写真も確認することができる。また、第13期生の『卒業記念写真帖』には「アンパンマン」の原作者やなせたかし氏のご尊父・柳瀬清氏の顔写真も載っている。



『卒業記念写真帖』（No. 64 - 1 ~ 64 - 3）

上から第11期生、第12期生、第13期生



柳瀬清氏の顔写真

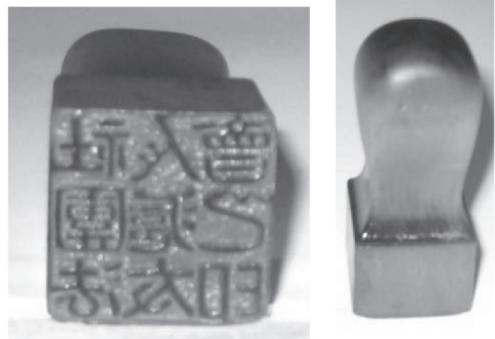
第13期生の『卒業記念写真帖』
(No. 64 - 3) に所収

なお、大村氏から記念センターにアルバムが寄贈されるに至った背景には、書院第42期生の三田良信氏による働きかけが大きかった。

木山員子氏からは、書院第21期生のご尊父・山本春太郎氏が所蔵しておられた書

院時代を中心とする写真が収められたアルバム、ならびに第21期生卒業35周年を記念して戦後に制作されたアルバム『如蘭集』を寄贈頂いた (No. 61 - 1、No. 61 - 2)。前者は大旅行に出発する時の様子など、学校生活の様子をうかがい知ることができる写真が多く収められている。後者は書院生時代の顔写真と1950年代半ばの家族写真が比較できる形で収められており、書院生の卒業後の人生が鮮やかに浮かび上がる興味深い資料である。

書院第44期生(予科)の関谷賢三氏からは、書院卒業生同窓会組織「滬友会」の印鑑類などを寄贈頂いた (No. 63 - 1)。



社団法人滬友会の印鑑 (No. 63 - 1 ③)



山本春太郎氏旧蔵のアルバム (No. 61 - 1)

すでに卒業生の高齢化などの理由で滬友会が解散されていることを考えると、その存在を今に伝える重要な資料と位置付けることができよう。

この中には東亜研修所の印鑑も含まれているが、東亜研修所とは1962（昭和37）年に当時社団法人だった滬友会が設立し、華文協会と共催で一般社会人を対象とした中国語夜間講習会を開催した組織である。しかし、経営上の問題から1964年に霞山会へ委譲され、これが1967年に中国語を主要教科とした各種学校「東亜学院」の創設へとつながることとなった⁽⁴⁾。その意味で、東亜研修所の印鑑は滬友会の活動や霞山会との関係を知る上でも興味深いものである。

以上のように、近衛家、東亜同文書院、愛知大学豊橋キャンパスの戦前の様子などに関する資料を中心に紹介したが、日本政治のあり方や日本の対中国政策を批判したものかと推察される「偽善ノ面皮ヲ剥ゲ虚喝ノ舌根ヲ抜ケ」と記された**犬養毅の書**（No. 36－92）や、名古屋が生んだ高名な外来語研究者、**荒川惣兵衛の書簡**（No. 36－94）⁽⁵⁾のように珍しい資料も寄贈頂いている。今回ご紹介できなかった分も含めて、寄贈頂いた資料を大切に保存するとともに、研究や展示などで活用させて頂く所存である。今回資料を寄贈下さった方々、ならびに記念センターへの資料寄贈に関わられた方々に、厚くお礼申し上げます。

注：

(1) 「佐伯理一郎先生略年譜」、『医譚』復刊第3号・通巻第12号（日本医師学会関西

支部、1953年）。

(2) 『近世名士写真』 其一・其二（1935年）、国立国会図書館近代デジタルライブラリー。

(3) 『恩師大村欣一教授を憶ふ』 23頁（大村印刷株式会社印刷、三田良信発行、2011年）。

(4) 『霞山会 50 年史』 84 頁（財団法人霞山会、1998 年）。

(5) 荒川惣兵衛（1898～1995 年）は1930（昭和5）年に『日本語となった外来語』を自費出版して以降、戦後10年ほどの中断をはさみながらも外来語の研究を行った人物である。特に、1941年に世に出された『外来語辞典』（富山房）は語学界の最高賞といわれる「岡倉賞由三郎賞」を受賞した（『信州白樺』第64号・荒川惣兵衛特集号（1985年）、「中日新聞記事データベース」1995年6月19日・2011年7月13日を参照）。

【凡例】

(1) 以前に寄贈頂いた方の資料番号は、通し番号として登録している。

(2) 歴史的な人物と位置付けられる人名については、本文ならびにリストでは敬称略となっている。

(3) 資料の題名や本文は、基本的に当用漢字に改めて資料解説および資料目録で紹介している。

(4) 年号は西暦表記を基本とした。ただし、資料解説では西暦と元号を併記した箇所がある。

(5) 目録中の「寄贈年月日」は資料が記念センターに寄贈された日、もしくは記念センターに到着した日を示している。

2014年度寄贈資料目録

No	日付	内容	差出人	受取人	寄贈者氏名	寄贈年月日
36	36-77	1940年	近衛文隆書		有森茂生氏	2014年4月19日
	36-78	1898年1月1日	年賀状	上海・日清商品陳列所	同上	同上
	36-79	1914年仲秋	犬養毅に贈られた孫文の金言 (複製)「依民意國達逆民意 國亡」		同上	同上
	36-80		『週刊朝日』(1923年9月9日) ※関東大震災特集		同上	同上
	36-81		『アサヒグラフ』(1959年) ※伊勢湾台風特集号		同上	同上
	36-82		第十五師団、陸軍教導学校の 写真はがき 計5点 ①第十五師団司令部 ②歩兵第六十聯隊正門 ③歩兵第十八聯隊正門 ④工兵第十五大隊正門 ⑤陸軍教導学校前通り		同上	2014年5月14日
	36-83	5月9日の日付けあり	犬養毅書「五月九日帝国外交 失敗記念」			2014年5月23日
	36-84		豊橋第一陸軍予備士官学校 絵はがき 計10点(封筒付) ①入校式 ②学校本部、将校集会所 ③生徒集会所、養生舎 ④豊秋津神社、遥拝台 ⑤歩兵生徒隊表門、大講堂 ⑥砲兵生徒隊表門、愛馬之碑 ⑦高師原演習場(歩兵)、 天伯原演習場(歩兵) ⑧高師原演習場(砲兵)、 天伯原演習場(砲兵) ⑨精神訓話、剣術(歩兵)、 馬術(歩兵) ⑩卒業式、血染式、宣誓文		同上	2014年5月27日
	36-85	1938年4月22日	写真特報大阪毎日第461号3-2 「同文書院上海に復帰開校」		同上	2014年7月5日
	36-86	1937~1938年	書院生の通訳従軍時の大きな 布製荷物入れ		同上	2014年8月5日
	36-87		杉浦重剛の和歌		同上	2014年8月中旬
	36-88	1911年3月	「日清学会名士一覧」大分県 首藤定喜編輯、同県木津惣太郎 発行・西原重暉印刷		同上	2014年9月8日
	36-89		①「大明通行宝鈔」 ②「大清宝鈔」		同上 同上	2014年9月8日 2014年9月8日

	36-90	1937年9月9日	「内閣諭告 尽忠報国の精神を 国民生活に実践せよ」内閣総理 大臣近衛文麿			同上	2014年10月4日
	36-91	明治・大正期	第十五師団輜重兵第十五大隊の 写真はがき 計6点 ①第一中隊兵舎 ②第三中隊兵舎 ③内務班 ④輓馬教練 ⑤駄馬教練 ⑥営門			同上	2014年10月4日
	36-92		犬養毅書			同上	2014年10月26日
	36-93		近衛篤麿写真			同上	2014年11月7日
	36-94	1935年2月5日 (封筒、便箋記入)	原稿閲覧に対する挨拶、質問さ れた英単語の漢字表記につい ての回答、英華辞典の情報など	上海居留民団立日本 実業学校 荒川惣兵衛	東京市荏原区 青木茂	同上	2014年12月24日
	36-95	①1938年1月12日	写真特報大阪毎日第418号3-2 「春立ち帰る上海風景」			同上	同上
		②1938年2月16日	写真特報大阪毎日第433号4-3 「上海の紀元節奉祝」			同上	同上
	36-96	1902年9月5日発行	『太陽』第8巻第11号（根津一 「南清の形勢」掲載）				
61	61-1		書院第21期生・山本春太郎氏 の書院時代を中心とするアルバム			木山員子氏	2014年5月28日
	61-2		如蘭集（東亜同文書院第21期生 卒業三十五週年記念）			同上	同上
62	62-1		近衛文麿書「守樸」			学校法人 国士舘	2014年5月30日
63	63-1		滬友会の印鑑、スタンプと看板 計7点 ①滬友会会長の印鑑 ②滬友会理事長の印鑑 ③社団法人滬友会の印鑑 ④滬友会蔵書の印鑑 ⑤東亜研修所の印鑑 ⑥滬友会住所のスタンプ ⑦滬友会看板（プラスチック 製、事務所入り口用）			関谷賢三氏	2014年8月28日
64	64-1	1914年5月	『卒業記念写真帖』 東亜同文書院第11期生			大村英夫氏 （三田良信氏 経由）	2014年9月3日
	64-2	1915年6月	『卒業記念写真帖』 東亜同文書院第12期生			同上	同上
	64-3	1916年6月	『卒業記念写真帖』 東亜同文書院第13期生			同上	同上
65	65-1	1908年9月印刷発行	『第5回卒業生記念写真帖』 清国上海東亜同文書院			松永俊一氏 〔追登録〕	1994年9月8日
	65-2	1909年10月印刷発行	『第6回卒業生記念写真帖』 清国上海東亜同文書院			同上	同上